



凱旋道路の亀裂（『東京震災録』写真帖及附図）

日露戦争の勝利を祝して明治39年（1906）に建設された凱旋道路、二重橋に向かう首都東京の表玄関というべき道路にも大きな亀裂が走っています。また、皇居の石垣の一部も損壊しているようすが窺われます。

そんな中でも、多くの避難者が宮城前広場に向かっています。後に編まれた警視庁の記録によると、宮城前広場とその周辺には約21万人にも及ぶ人々が一時的に退避したと伝えられています。また、日本赤十字社の臨時救護所が馬場先門付近に設置され、1,700人の罹災者が救護されました。

参考文献

警視庁編『大正大震火災誌』警視庁、1925

東京都公文書館編『都史資料集成第6巻 関東大震災と救護活動』東京都、2005